

# 稲美町総合教育会議 会議録

(令和5年度第1回)

1 開催日時 令和6年2月22日(木) 開会 13時30分  
閉会 15時11分

2 開催場所 稲美町役場303会議室

## 3 会議に付した事項

### 1. 開会

### 2. あいさつ

### 3. 協議・調整事項

- (1) 中学校部活動の地域連携・地域移行について
- (2) 稲美町立幼稚園の今後のあり方について
- (3) 自由討議

### 4. その他

- (1) 第3次稲美町教育振興基本計画(大綱)にかかる点検評価報告書について
- (2) 次回開催予定について

### 5. 閉会

## 4 構 成 員

稲 美 町 長	中 山 哲 郎
稲美町教育委員会 教育長	北 谷 錦 也
稲美町教育委員会 教育長職務代理者	後 藤 哲 夫
稲美町教育委員会 教育委員	本 多 澄 子
稲美町教育委員会 教育委員	高 田 道 夫
稲美町教育委員会 教育委員	松 田 緑

## 5 事務局

経営政策部長	井上勝詞
経営政策部企画課長	岡野耕平
教育政策部長	沼田弘
教育政策部教育課長	奥陽一
教育政策部学校教育担当課長	野邊久美
教育政策部管理担当課長	前田浩二
教育政策部人権教育課長	瀧口泰広
教育政策部生涯学習課長	赤松嘉彦
教育政策部文化の森課長	中嶋聖仁

## 6 開 会

司会(井上経営政策部長)

それでは定刻となりましたので、只今から令和5年度第1回稲美町総合教育会議を開催いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、経営政策部長の井上でございます。よろしくお願いいたします。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4により、地方公共団体の長が設ける会議でございます。

本年度は、今回の1回のみの開催の予定でございます。会議内容等の詳細につきましては、後ほどご説明いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

はじめに、中山町長からごあいさつをお願いいたします。

中山町長

皆さんこんにちは。町長の中山でございます。本日は稲美町総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。

平素は、各委員の皆様方におかれましては、稲美町の子ども達の教育の充実、そして文化芸術の振興にお力添えを賜っておりますことに、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、皆様もご承知の通り、1月1日に発生した能登半島の地震でございますが、一瞬にして人々の平和な生活が失われたわけでございます。今、学校が再開をされたようですが、子ども達にとって、教育の場が滞ったわけでございますし、文化芸術についても、今は難しい状況が続いています。そんなときだからこそ、生活に潤いを与える芸術文化というのは、つらい思いを解きほぐすという意味でも必要なものだと思っておりますので、1日も早い復興を願っているところでございます。

さて、教育総合会議ですが、先ほどもお話がありました通り、私と教育委員会と一緒に  
なって稲美町の教育課題を話し合いながら、よりよい姿を求めて進めていこう、そういつ  
た趣旨で平成27年から始まったものでございます。

昨日からは、令和6年度の予算編成に向け3月議会がスタートいたしました。その中で、  
教育、文化芸術についてもしっかりと予算の編成をしているところでございます。資料が  
手元にあるかと思しますので、ご覧ください。右側のページの真ん中から下が教育費で、  
ソフトからハードまで多岐にわたる形で事業が並んでいます。主なものを順番に見ていき  
たいと思います。一番上、教育振興基本計画策定事業。これは、稲美町の教育又は文化振  
興の柱になる計画でございます。第4次計画の策定を令和6年度に進めてまいります。次に、  
4つ目5つ目ですが、ふれあい教室充実事業と不登校児童生徒支援事業です。今日の議題の  
中にも入っていると思うのですが、なかなか学校に行きにくい子ども達のために、環境面  
を充実させたり、フリースクール等へ通う授業料を補助していこうというものでございま  
す。その他、いくつかに関しては、学校教育現場の環境面を充実させる予算でございます。  
次に、中学校部活動地域移行推進事業です。既に試行も含め取り組んでいるところでござ  
いますが、これにつきましても引き続き進めてまいります。次に、幼稚園教育計画策定事  
業です。これも令和5年度から取り組んでいるものでございますが、幼稚園教育のあり方  
について、皆様のご意見をお聞きしながら、今後様々な課題に対応していくためにどうい  
った形が望ましいのかということを協議してまいります。その他にも、人権教育啓発事業、  
放課後児童クラブ管理運営事業、町史編さん事業等があり、これらは令和5年度から引き  
続き進めてまいります。稲美町の歴史をしっかりと次の世代に引き継いでいく事業でござ  
います。トップアスリート招待事業については、子ども達にスポーツに興味を持ってもら  
うために、トップ選手にご指導いただいたり、今、若者に人気のあるスケートボード等の  
アーバンスポーツの環境整備を稲美町でも行っていこうというものでございます。そして、  
学校給食食材物価上昇支援事業は、子ども達の給食費が物価高騰で値上がりをしておりま  
すので、物価上昇分について、家計への支援という意味で補助をさせていただいております。

このように、令和6年度の事業実施を考えておりますので、皆様のご意見をお聞きし  
ながら、しっかりと取り組んでまいります。よろしく願いいたします。

簡単でございますが、あいさつとさせていただきます。

司会（井上経営政策部長）

ありがとうございました。続きまして、北谷教育長、ごあいさつをお願いいたします。

北谷教育長

皆さんこんにちは、教育長の北谷でございます。中山町長をはじめ、教育委員の皆様には、稲美町教育委員会各課の事業の取組にご理解とご尽力、ご協力をいただきまして本当

にありがとうございます。

学校の様子を少しお話しますと、定例教育委員会でも報告しているのですが、昨年度末からインフルエンザが大流行ということで、この1月から2月も幼稚園、小学校、中学校では、たくさんの学級が学級閉鎖、学年閉鎖ということになってしまいました。各学校園では、基本的な感染対策を含め換気等の注意をしているのですが、なかなか防ぎきれないところがありました。やっとピークが見えたかなということで、まだ少し体調を崩している子ども達もいるのですが、今週あたりから学級閉鎖まで至るということはありません。コロナも少し心配ですが、このまま収束し、子ども達が元気で学校生活を送ることができるように願っております。

そして、町長からもお話がありましたが、つい先日、生涯学習課のトップアスリート招待事業で、卓球のプロ選手だった四元さんに来ていただきました。やはり一流の方の言葉というのは、一つひとつ違うな、響いてくるものがあるなということと、実技の指導もありまして、小学校就学前の子どもさんから、私達と同年代あるいは私達の先輩にあたるような人たちが、一緒にネットを挟んで四元さんと試合をしている姿を見ると、本当に皆さんの目が輝いており、非常にいい事業だったと思っています。こういう機会を増やすことによって、子ども達だけでなく、大人も夢を見ることができるような、そんなまちづくりを進めていきたいと思っています。

もう一点、町ではいろいろな立場で青少年の健全育成に取り組んでいただいています。例えば、防犯協会や自治会長会、それから、加古川警察あるいは役場の中の教育委員会だけではなくて、危機管理課等も協力をいただいて青少年問題協議会を開いています。先日、2回目の会議がありましたが、その中で「子ども達の問題行動が少なくなったよね。」「稲美町の子ども達は非行とかそういう問題行動なく、すくすくと育ってくれている。」というご意見があり、それぞれの立場で見守りを続けておられる方々が、お互いにその取組に対して、感謝をし合うというような会になりました。ただ、心配なこととしては、表に出る問題行動はなくなってきましたが、悩みや不安を抱える子ども達が増えているように感じるということです。それは、学校現場からは不登校であったり、あるいは自傷行為というような自分の体を傷つけたりする子ども達が、中学生・小学生と低年齢化してきているという、その子ども達への対応について話し合いを行いました。なかなか難しい問題ですが、みんなが連携し情報共有し、みんなで子ども達を見守っていく。子ども達と一緒に自分たちも育っていく。そういう姿勢が必要ですよという結論に至りました。まさに教育・子育ての一番の大切なポイントではないかと思います。

今日は、この総合教育会議でいろいろな学校教育、社会教育における課題を皆さんと一緒に共有するとともに、これからの取組についても力を合わせていく第一歩となればと思っていますので、この後の会議の方もよろしく願いいたします。どうもありがとうございます。

司会(井上経営政策部長)

ありがとうございました。

本日の会議の出席者は、別紙「令和5年度 第1回稲美町総合教育会議出席者名簿」のとおりでございます。

会議の構成員は、町長と教育委員会委員の皆様で、事務局は企画課と教育課、人権教育課、生涯学習課、文化の森課が担いますので、よろしくお願いいたします。

当会議の議長は、稲美町総合教育会議規則第4条の規定により、町長が務めることになっております。また、この会議は、同規則により原則公開で議事録を作成することとなっておりますのでご了解いただきたいと思います。

それでは、町長の方で会議の進行をお願いいたします。

中山町長

それでは、規則に基づいて議長を務めさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最初に、会議の傍聴を希望する者が5名ありますが、稲美町総合教育会議規則第9条の規定により、許可することとしてよろしいか。お諮りします。

教育委員

異議なし。

中山町長

ありがとうございます。それでは、稲美町総合教育会議規則第9条の規定に基づき、許可することといたします。

それでは、令和5年度 第1回稲美町総合教育会議次第の3. 協議・調整事項について進めてまいります。

まず最初に、(1)「中学校部活動の地域連携・地域移行について」の説明を事務局からお願いします。

奥教育課長 (資料説明省略)

中山町長

「中学校部活動の地域連携・地域移行について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

高田教育委員

私の家の前には、稲美北中学校の一番西側にある武道館があります。部活動の地域連携が始まる前から、木・金・土曜日の週3回、午後7時から午後9時ぐらいまで、おそらくは柔道かと思うんですが、指導者が来られて活動されています。子ども達はどんなふうにして来ているのか、親御さんが送ってこられるのかどうかはわからないんですが、一年中、暑いときも寒いときも活動されています。近頃はちょっとましになりましたけど、12月から1月の夜7時というのは真っ暗です。武道館の中は熱がこもるからなのか、下の方の窓を開けて風通しを良くしてあるみたいです。

活動場所の確保とか、その管理とかいろいろ難しい問題もあるでしょうが、何年も続けて、練習しておられる様子を見たら、そうかこういう形でもやっておられるんだから、何とか話し合って、知恵を出していったら、うまいこといくのではないかという安心感はあるので、関わる人には頑張っていただきたいと思います。

中山町長

ありがとうございます。今、高田委員がおっしゃっていただいた稲美北中学校の武道館の取組は、学校開放ですね。

北谷教育長

学校開放では、スポーツクラブ21や体育協会に加盟している競技団体等から申請があれば、施設に空いているときがあれば、稲美北中学校だけではなく、町内小中学校の体育館・スポーツ施設を活用してもらうようにしています。

中山町長

地域の中には、そうやって教えておられる指導者の方がいらっしゃるということですから、地域指導者の確保というのは、課題になっていますので心強いですね。現状、剣道部は中学校では部活動がなくなっている種目の一つですね。

奥教育課長

はい。両中学校ともいわゆる武道場を使う柔道部、剣道部に関しては、現在存在しておりません。

中山町長

ご説明もありましたが、稲美町の部活動の課題をクリアしていくために、現在、どのように進めていただいていると理解すればよろしいでしょうか。

奥教育課長

冒頭にもお話しましたように、子ども達を中心に据えていくという考え方から、まずは

現在の部活動の地域連携、そして移行を進めていくという考え方で取組をしております。

#### 後藤教育委員

いろいろな問題も出てきながら、教員の働き方改革などが一つのきっかけになって、部活動の見直しということが必要な状況になってきているのはよく理解できます。

その中で、子ども達が部活動をしていく、将来的にはクラブ活動という形で続けていく機会がみんなに均等にあるように、特に経済的な負担ということで諦めざるを得ないということがないように十分配慮しながらやってほしいと思います。

私は、部活動を指導してきた経験上、中学生の年齢において部活動が占める意味というのは、改めて大きいと感じています。もちろん、勉強プラス部活動ということで、皆さんご承知のことだろうと思うんですが、部活動は中学校に入って自分で選択でき、異年齢の友達、先輩・後輩もできます。そして、多くの子が3年生の夏には部活動を引退しますので、実質2年半の活動が終わりますと、自分の活動がどうだったかみんな振り返るわけです。充実しており悔いなしという子もいれば、途中で辞めたいなと思った子もいるだろうし、仲違いとかそんなこともあって、うまくいかずに途中で辞めてしまったという子もあるんですが、自分で選択をして、2年半の間仲間とやってきてどうだったかなということ考えたときに、夏休みが終わりまして、2学期になりますと、3年生にとってはもう自分には部活動をする機会がないんだと切実に思うわけです。後輩たちが新人戦に出るために練習をしているのに、そうか、自分たちの部活動の時間はもうないんだと感じます。この経験がすごく大きいと思うんです。

人の一生で考えると、人の一生はいつかは終わるよ、その間に何をするのかということが大事なんだよということが将来的にわかってくるんですが、まず、中学校の部活動が終わった、そして、中学校生活において、自分には2度と部活動をするチャンスはないんだということを実感します。この経験というのは、将来社会に出ていく中において、とても大事な力といいますか、だからできることは一生懸命やっていかなきゃ駄目なんだ、悔いを残しては駄目なんだということを実感できるということとても大切なことです。ですので、ぜひこの移行に関しては、ソフトランディングをして、子ども達みんなにそういう経験をするチャンスを与えられるように、何年もかかるかと思うんですが、じっくり進めて欲しいというお願いです。

#### 中山町長

ありがとうございます。とても大切なところをおっしゃっていただいたと思います。

#### 北谷教育長

先ほど、事務局からの説明をさせていただきましたが、まずこの部活動の地域連携・地域移行、途中で地域連携という言葉がプラスされてきました。当初、国からは、先生方の

働き方改革もあり、また、子ども達の活動の更なる充実ということで、スポーツ活動、文化活動を学校から切り離し、地域によって地域の文化活動、スポーツ活動もさらに活気が出るようにというような方針が出されたのですが、それぞれの自治体によって、受け皿の部分で難しいところもあるということで、地域連携の形もいいですよとなりました。しかし、実はその受け皿だけの問題ではなくて、国の予算が取れなかったということもあります。先ほど後藤委員からもありましたように、学校の部活動の良さというのは、全ての子ども達にあまり負担をかけずに、みんなが参加できるということです。それを保障するためには国等の補助が必要なんですけど、なかなかできなかったということです。

そんな中で、今、国がどういう形を示しているかというと、地域連携です。学校の先生方と地域の指導者が一緒になって、子ども達を指導していく形。専門的な優れたスキルを持った地域の方がたくさんいらっしゃいますので、そういう人たちも支援に入ってもらおうというやり方です。

それをさらに進め、先生方の働き方改革を考えるのであれば、ハイブリッド型もあるでしょう。平日は先生方、土日は地域の方に任せましょうという形。また、別の方法として、完全地域移行型ということで、平日も含めて地域に任せましょうという形もあります。これらの方法の中から、それぞれの市町ができる形で進めていってくださいというのが今の国の方針です。

稲美町では、地域指導者に協力していただくとか、先生方が指導しているけれど、両中学校が合同で活動することによって先生方の負担を減らすとか、そういうことをやっています。どちらかというと、完全地域移行型、ハイブリッド型というところについては、今、稲美町として遅れています。これについては、令和6年度以降、地域の方々の協力を得ながら、さらにその実証を進め、本当に稲美町で子ども達を中心としていく中で、それを支える形、組織作りをいろいろと工夫し、様々な意見をいただいているところです。

先日、実証している吹奏楽部と、両中学校の吹奏楽部のOG、OBを中心に作られている地域吹奏楽団のコスモシンフォニックウインズに、小学生のじんけんわくわくスクールで演奏してもらいました。そうしたら、中学生はもちろんバンドの中にいますが、高校生もありましたし、お父さんお母さん世代、あるいはそれよりもちょっと高い世代もおられました。思わぬ効果としては、聞きに來ている小学生がそこに一緒に参加していました。また、お母さん方の世代って、場を作ることが非常に上手だなと思いました。ちょっと照れている中学生を励ましたり、一緒に指揮をやってみないかなどと声を掛けて小学生を上手に引っ張り出されていました。このような形の活動は、今までの中学校の部活動ではありませんでした。このような、地域の人と一緒にやるような活動を見ながら、どちらかというと先生が横でニコニコしているという、こんな形ができたらいと思っています。音楽が持つ力かもわかりませんが、これはスポーツとか、他の芸術文化活動にも応用できるのではないかと考えています。こういう実証を進めながら、少しでも前に進めたらと思っています。



中山町長

ありがとうございます。本当に大切なものを残しつつ、稲美町らしい形を時間をかけながら進めていけたらと思います。

続いて、(2)「稲美町立幼稚園の今後のあり方について」の説明を事務局からお願いします。

前田教育課管理担当課長 (資料説明省略)

中山町長

「稲美町立幼稚園の今後のあり方について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

高田教育委員

質問ですが、先ほど令和6年度に年4回開催されるということでお話されたんですが、令和6年度で方向性を決めるとか、あるいはもうちょっと検討を続けるとか、予定というのは、どんな具合でしょうか。

方向性と言ったら、このままでいくというのも方向性ですし、合体するというのも方向性ですが、見通しとして例えば令和7年度からは、何かするとかそういうことでしょうか。

前田教育課管理担当課長

委員のおっしゃる通り令和6年度で、教育計画の策定を実施したいと考えております。その中で、検討課題として園から課題が出てはいるのですが、それ以外にもいくつかの課題はあるかと思います。それについては、事務局から提案をした上で、町立幼稚園の今後のあり方策定検討委員会の中で検討していただき、それを聴取した上で教育委員会で策定をしていきたいと考えております。もちろん充実という部分での検討もありますし、異年齢の実施というのも2回目で話し合ったところですが、冒頭でもお話ししました通り、幼稚園の小規模化における運営の影響というのもございます。

幼稚園でさらにいうと、想定以上に規模が下回るいくつかのケースについて、どうしていくのか、どう進んでいくのか、稲美町の全体の教育・保育の形として、住民の方に充実したものを提供していくことができるのかというのを、令和6年度中にある程度検討していただいて、それをもって教育計画を策定したいと考えております。

中山町長

先ほどの地域連携・地域移行とは違って、方向性をしっかりと探りながらというところ

ですが、現場では既に異年齢教育に取り組んでおられます。特別支援についても、一つ課題として出てきています。先ほど事務局から申しあげました通り、今後は、それ以外の課題も多分出てくると思います。その中で、令和6年度においても時間をかけながら協議をすることで、どうしていくのかという部分が見えてくると思います。ただ、センシティブな問題でもありますし、現状としては、少子化対策であったり、子育て支援を充実していかなければいけないというすごく大きな課題も抱えています。両方をうまく進めていくことで、形が見えてくるのではないかと考えておりますので、その辺は少し時間がかかるのかなというところです。最初から何か方向性があるということではないですが、議論をする中で出てくるのではないかなと思っています。

#### 高田教育委員

全体を眺めると、こうしなければいけないという方向性は見えてくると思います。しかし、個別のところだったら、やっぱりこのままとか、どうしてもそう思いがちですので、個別の気持ちを汲み上げていくというのは非常に難しいと思いますが、全体のあるべき姿を見つつ、それをうまく気持ちを込めてやっていただけたらと思います。

#### 松田教育委員

私事ですが、私は今、町外に住んでおります。子どもが1人いるのですが、幼稚園に通っています。今通わせている幼稚園には、特別な支援を受けられるつくしの部屋という教室があり、そこでは1日1対1で丁寧に見てくださる先生がいらっしゃるって、年間いろんな方がお越しになるので、だいたい5回ぐらい1対1で見ていただく機会があります。その見ていただいた結果を担当の先生とか、園長先生にお伝えして、より良く過ごせるように、配慮してくださっています。年中から年長にかけて、つくしの部屋を利用することができるのですが、稲美町の場合はその特別支援ということでは、どのような対応をしていただけるのか教えていただけたらと思います。

#### 中山町長

公立の幼稚園でということですのでよろしいでしょうか。事務局お願いします。

#### 前田教育課管理担当課長

稲美町では、通常学級の中で先生と特別支援教育指導補助員ということで、補助員をつけて、同じ教室内で指導をしていただいているという状況にあります。稲美町につきましては、学級の中でのそういった支援が必要なお子さんにもいろいろいらっしゃいますので、その園児に合わせて、人数配置といったものも配慮しながら、同じような経験、教育をしていただいた上で小学校に上がっていく。そういったことができるように配慮させていただいております。良い面、悪い面はあるとは思いますが、現在、稲美町ではそういった対

応をさせていただきます。

#### 野邊教育課学校教育担当課長

それに付け加えまして、コンサルテーションということで専門の先生に定期的に園に来ていただいて、子ども達の様子を見ていただき、その後、担任の先生等にこういう指導が適切であるとか、このように子ども達に声かけしてみたらどうというような専門的な知見からお話をいただく、そういう機会も設けております。

#### 北谷教育長

町内の5園を回らせてもらう中で、感じる場所も含めて稲美町の取組なのですが、今事務局からありましたが、町の理解が得られて、特別な支援を必要とする子どもの補助員を複数付けていただいている。また、異年齢のクラスに対しても、その補助員を付けていただいている現状です。

そんな中で、ある園には車椅子の男の子がいました。その子は肢体の障害だけではなく、知的な面についても支援が必要な子どもでした。ちょうど幼稚園の園庭で、忍者ごっこをしていたんですが、車椅子の子が、子ども達の遊びにどうやって参加するのかということ子ども達が話し合いをしているんです。補助員の方が補助していただいているので、分けて遊ぶのではなくて、障害のあるお子さんも一緒に遊べていました。子ども達はその子が参加できるルールを作って、一緒に楽しんでいるというところは、子ども達って素晴らしいなと思いました。車椅子の子は、それまでは嫌なところもあったのか、奇声を発していたのですが、その子の声が今度は喜びの声に変わって、きゃあきゃあ言いながら友達と遊んでいる姿がありました。もちろん、必要なときには補助員の方あるいは先生が手を貸すんですが、できるだけそれをしないように、子ども達が自分たちで遊べるような形、それに私も感動してこういう形を続けていただきたいと思います。もちろんそれは園の取組の素晴らしさもありますが、指導補助員の方々にも、年5回研修も受けていただいて、補助のあり方等を学ぶ機会を事務局でも設けている、そのおかげかなと思います。

進め方は様々ありますが、稲美町としては先ほど事務局からありましたように、インクルーシブというか、一緒に学んで一緒に育つという方向性を求めて、補助員の方にもお願いしているようなところです。

それからもう一点医療的ケアが必要なお子さんには、必要に応じて看護師さんを常駐してもらって進めています。

#### 野邊教育課学校教育担当課長

支援が必要な子どもさん、親御さんの悩みが大きいかなと思います。これに関しては、各幼稚園で教育相談という場面を作っておりまして、専門の方に相談してみたらどうかという機会を設けております。

また、随時教育課の職員も訪問し、アドバイスをしておりますし、直接、教育委員会に電話をいただいて相談を受けた場合は、こども課と連携して、一緒に子どもの様子を情報共有し、保護者に助言等しながら、就学についての準備を進めている状況です。

中山町長

続いて、(3)「自由討議」に入らせていただきます。

まず、学校になかなか行きにくいという児童生徒についての課題も大きな点ではないかと思っています。この点については、現在も、それから令和6年度予算でも不登校児童生徒の支援について政策を盛り込んでいるところですが、もしよろしければ事務局から改めて詳しくご紹介いただければと思います。

瀧口人権教育課長

不登校児童生徒の支援につきましては、各学校におきまして担任だけではなく、管理職、生徒指導担当、養護教諭、最近ではスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを含めたチームで、個々に対応した支援を行っております。

また、毎月校長会や生徒指導担当者会で各学校から情報交換を行いまして、教育委員会として周知を進めています。

さらに、ふれあい教室と学校との連携を深め、様々な指導上の工夫を考え、支援の充実を図っているところでございます。

今年度2学期からは、ふれあい教室まではなかなか通えないということで、ふれあい教室サテライトを町内公共施設で不定期ではありますが開催し、新たな居場所を提供しています。

また、従前から、両中学校に配置された児童生徒支援員を令和5年9月補正におきまして、天満小学校にも10月から配置し、校内ふれあいルームの充実に努めております。

さらに、令和6年度からふれあい教室の更なる充実ということで環境整備、またスクールカウンセラーの配置、学校以外で行う社会的自立に向けた多様で適切な学習活動を支援するため、不登校児童生徒の保護者等に対して、民間不登校児童生徒支援施設の利用に要する経費の支援を考えているところです。

中山町長

人的な面、それから環境の面、そして経済的な面からも多方面に支援をしていこうということですが、後藤委員、不登校支援は今こういった形で進めているところですが、どうでしょうか。

後藤教育委員

全国的にも大きな課題になっております。特にコロナ禍で学校が不定期に休みになった

ということで、これまで毎日登校することが普通ということが途切れた時期もありますし、そういったことが一つのきっかけになっているのではないかなとか、そういったこともあり、できるだけ早く立ち直って、不登校生が減っていくようにということが一番大きな課題の一つであろうと思っております。この不登校児童生徒の支援については、それぞれ状況が違いますので、個々に対応する必要があります。

そのため、1人ひとりにきめ細かな対応ができるようにという意味で、教育委員会としては、特にふれあい教室の更なる充実を中心に取り組んでいく必要があると考えています。それぞれ支援方法は、個々の対応が切れ目なく必要ということで、指導に当たる方の人員配置、また、設備や機能、さらなる充実ということが求められると思います。さらに、カウンセリング機能の充実を図るためにも、臨床心理士といった専門家の配置ということも必要ではないかと思います。

令和5年度については、ふれあい教室の指導員をこれまで1名から2名配置できましたし、ふれあい教室のサテライトを含め、これまでにプラスした充実した活動はできております。さらに、福嶋育英会から寄附をいただきまして、ふれあい教室とか、両中学校の校内ふれあいルームの図書の実も図っているところです。

しかしながら、特に小学校での不登校ということが最近課題になってきており、全体的に増加傾向にあります。ふれあい教室の複数教室の配備や、すべての学校に児童生徒指導員の配置といった、さらなる充実を図る必要があると思います。

中山町長

対策は進めているんですが、おっしゃったように低学年からであったり、小学校に関しては環境面でも人的配置でもまだ十分ではない部分もありますので、しっかりと進めたいと思います。

北谷教育長

現在、ふれあい教室の登録者数18名で、過去最高です。今までは、どちらかというと中学生が多かったのですが、今年は小学生も毎日若干の入れ替わりがありますが、10名前後の児童生徒がふれあい教室に来てくれています。その中で、それぞれの中学校、小学校からの先生方が顔を見に応援に来てくれるんですが、学校では見られなかった様子が見られて嬉しいというような声も聞いて、非常に嬉しく思っております。ただ、2人の指導員の先生方はいつお昼を食べているのだろうというぐらいの状況でして、例えば給食もできるだけ食べさせてあげたいということで、学校に行けるよというお子さんは、指導員の先生が送迎しながらやっていますし、ここに残るというお子さんがいたら、先ほどの瀧口課長、あるいは他の指導員、教育課から応援に行ったりしていますし、両中学校のふれあい教室においては、本当にそれがあって助かったということも聞いています。

小学校はといいますと、現在、天満小学校に配置していただいています、増やすこと

ができたかと考えています。各小学校、中学校ともいろいろ先生方も工夫してやってくれていますので、支援していけたらと思います。

中山町長

もちろん専門のスタッフ、先生方も大切ですが、この後コミュニティ・スクールとか、そういった地域連携の話もしたいなと思うんですが、これももし検討できるのであれば、地域の方々にも協力的していただける部分があればいいかなと思います。

学校を支えるという意味では、地域の方にいろんなご支援をいただいております。

後藤教育委員

現在、不登校の児童生徒について、どういう方向を目指して支援をしていくのかということについては、再び学校に行けるようにということではなくて、将来的に子ども達が社会的に自立するということを目標に支援していきましようということが言われております。

そういったことを実現するために、学校、教育委員会、地域の方などが一緒に取り組んでいただければいいのかなと思います。私のような年齢の者から言いますと、私が小さい時には、近所の友達と一緒にワーッと行って夕方まで遊んだり、今の時期ですと、おしくら饅頭をして歌いながらやったとか、山に行って川に行って、海に行ったりしました。多少の危険もありましたが、そういう中でいろんなことを覚えていったのですが、一番残っているのが、みんなで集まると楽しいんだという思い出です。何か人と一緒にいることの喜びというか、そういったことを本当に小さい時に、見つけてほしい。そういう機会が現代社会では非常に少ない。小さい時からバラバラで、1人で何かゲームをする、そういうふうなことが主流になってきていることはちょっと寂しいと思います。

温かみというのを幼いときに覚えますと、将来いろいろなことがあるわけですから、人生の中でそれに対して立ち向かっていく際に、希望を持って大丈夫だと自分で思える力になってくるのではないかと思います。

よくテレビなんかで、巣から出たばかりの子ぎつねが5～6匹一緒になって、うわ一つと遊んでいますよね。ああいうのを見ていると、あの中でいろんなことを覚えるわけです。戦い方も覚えるし、助け合いも覚えます。危険なことも勉強するし、お互いに顔を寄せて眠っている安心感というか温かさとか、ああいったものが基本的な情緒の安定感には必要だと思います。僕らも集団生活をする生き物ですから、身に付けるべきときに身に付けておくということの大切さがあるのではないかと思います。

中山町長

発達という意味では、1段ずつ階段を上っていく上で身に付けるべきことというのは、遊んだり喧嘩したりすることで得られる社会性の部分だと思いますので、少し今の子ども達は忙しすぎるのかなという気もします。大人も社会のその辺りについて少し考え方を変

えて、ゆっくり過ごすような機会というのがもう少しあってもいいのではないかと思います。

それを少し担う意味で、学校だけでなく地域が支えていく部分があるかと思います。そういった意味では、コミュニティ・スクールとか、地域学校協働本部なんかもそういった役割を担っていただいているのではないかと思います。子ども達だけで集まって遊ぶ機会ってなかなか少ないのですが、意図的にそういう場を作っているのではないかなと思います。本多委員、そういった取組をみておられると思うのですが、どうでしょうか。

#### 本多教育委員

学校運営協議会と地域学校協働本部は、いずれも地域と学校が協働して、子ども達の成長を支える組織です。

異なる点は、学校運営協議会は学校から地域へ情報発信するなど、学校運営に参画いただき、より良い「学校づくり」目指しています。コミュニティ・スクールの取組としては、稲美中学校が4年目、稲美北中学校が6年目、小学校も2年目となり、それぞれ学校の独自性が出てきましたし、より児童生徒の主体的な活動や意見を取り入れて充実したものになってきていると感じています。

一方、地域学校協働本部は、PTAや地域の高齢者、各種団体など、幅広い参画を得て、地域全体で子ども達の学びや成長を支えるとともに、地域特性を活かした活動に取り組み、学校を核とした、より良い地域づくりを目指しています。学校協働活動、放課後子ども教室、土曜日等教育活動など、平成29年度から年次的に立ち上げて、7年目を迎える地域もあります。

#### 中山町長

特に中学校は、ボランティアだったり、稲美中学校も防災をテーマにしながら、いろんな人が入ってきており、積極性が年々充実していっているように感じます。

#### 本多教育委員

子ども達の活動を見ていると、ちょっと大人が心を動かされるというか、そんな活動が徐々に出来上がっているように感じます。

#### 中山町長

地震がまた起こったわけですが、本当に中学生ができることもたくさんあるんだなと思います。

#### 野邊教育課学校教育担当課長

具体的な取組ということで、事務局よりお話いたします。

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会制度を取り入れた学校ですので、まずは学校の教育目標を達成するために、課題として捉えていることを改善、解決するために活動を行っております。ですから、今までは学校運営協議会の委員の方々に、学校へのご意見や助言をいただいて、問題の解決や改善に取り組んでいました。しかし、最近、先ほどの子ども達の自主的な活動という話もありましたが、小学校でも学校運営協議会の委員の方々から、子ども達がとても自主的に活動している学校教育現場の様子をご覧になっておられますので、子ども達の意見をぜひ聞きたいというご意見がありました。そこで、今年は小学校の方でも座談会を行う学校が増えました。より良い学校にするために、子ども達にもどうしたら良いか、どんなことがやりたいというような意見を出してもらって、大人も一緒に、どんな学校にしようかな、私も地域のおばちゃんとして参加しているんですが、おばちゃんはこう思うんだけど、そういうことをお話する機会を持ちました。その中で子ども達がこんなことをやってみたら学校がぐっと盛り上がると思うとか、みんな仲良くなれると思うというような意見をいくつか出してくれたんです。それを取り入れて学校運営協議会で協議をしまして、子ども達の意見をぜひ実現させてやろうということで、どんなふうに行っていけば実現できるかを運営委員会で協議し、それをまた子ども達に先生を通じて伝えて、児童会とか児童会がない学校は6年生を中心に話し合いをして、その中のいくつか、今年度実現されております。

また、特に小規模校では、それに加えて、校外学習等で引率、授業支援、放課後の学習支援、クラブ活動や環境整備などにもボランティア登録をお願いしています。無理のない範囲、お時間が許す範囲で、力を貸してくださいということで、地域の方の力を借りながら、子ども達によりよい学びを提供するということに取り組んでおります。

また、これも先ほど本多委員からお話があったのですが、中学生のボランティア活動ということが、活発になっております。今年は、加古・母里・天満の夏祭りも、校区まちづくりの会で復活しております。また、いなみ冬景色や桜ウォーキング、コスモス祭等いろんな場で、中学生がボランティア活動、また部活動でも地域清掃等に取り組んでおります。

また、学校運営協議会には、地域学校協働本部の方とか、先ほどの校区まちづくりの会の方、民生委員の方、シニアクラブの方とかいろんな地域活動をされている方が委員の中にいらっしゃいます。ですので、コミュニティ・スクールで何か新しいことをやらないといけないというよりは、それぞれの活動を繋げていく、それがコミュニティ・スクールの活動でもあると感じています。

そうすることで子ども達を成長させていきたいと考えて活動しております。

中山町長

非常に興味深いというか、良いお話を聞けて、まさに子どもの権利の関係から申し上げると、子どもの意見、やりたいという意見を聞いて、それを実現させていく。周りの大人



がそれを支えて、本当に良い取組だと思います。どんどん広がっていけば、町づくりに関係してくると思いますので、ぜひそういった取組を進めていただけたらと思います。また見に行かないといけないですね。よろしくお願いします。

現在、町でも進めている大きな事業について、二つございます。一つは、スポーツ施設・文化施設の予約システムで、令和5年度システムの導入を進めています。現状について教えていただければと思います。

赤松生涯学習課長

令和5年の8月から事業者の募集を始めました。9月にプロポーザルのプレゼンテーションで、そこから業者と打ち合わせ等を進めまして、先日も打ち合わせをしています。令和5年度にすべての事業を進めたかったのですが、遅れていまして、令和5年度から令和6年度に繰り越し、7月末までにはシステム構築、9月末までにはテストを終わらせまして、令和6年10月1日から受付開始を目指して進めているところです。

中山町長

この件については、松田委員にお聞きしたいのですが、今スマホで何でもキャッシュレスで対応できますし、宿も全部スマホで予約できたりと、どんどん便利になっています。

しかし、役場としてはデジタル化が遅れている部分があるため、それに向けて取り組んでいこうとしているのですが、どうでしょうか。

松田教育委員

つい先日も、銀行で記帳するときに、通帳の残りのページが少なくなってしまったので窓口に行きましたら、若い方は通帳を使わないそうです。一応、通帳をいただいたんですが、これからはそういう時代ですと言われました。

スポーツ施設等予約システム導入事業は、スポーツ施設及び文化施設の予約システムを導入することにより、利用者の利便性向上を図るとともに、事務の省力化、効率化を図ることを目的に取り組んでいます。

中山町長

ぜひこの機会に、高齢者にも覚えていただき、慣れていただいて使っていただき、並んだりする必要もなくなりますので、その辺りは便利になるんじゃないかと思っております。予約システムは、今年の10月ぐらいから使えるようにということですなので、もう少し調整をしながら進めていただきたいと思います。

そしてもう一つ、しっかりと進めていただいているのが稲美町史編さん事業ですが、私も自治会の方で、ちょうど意見を聞く場があったので参加をさせていただいて、非常に興味深い話を聞かせていただきました。高田委員も取り組んでおられますよね。

高田教育委員

私は、稲美町史編さん委員会の副委員長で、加古地区の責任者ということでやっています。昭和57年に現在の分厚い町史ができて以来、40年以上経って、新しく令和4年から編さん事業が始まっているわけですが、加古、母里、天満の順番で2年ずつで、全部作ってこうと進めています。やってみて思ったことは、今、町長が言われたように、話がわいわい弾むということがあったんですが、加古は、全部で今のところ10数回、80人ぐらいの方に集まっていただきました。70代後半から90歳ぐらいまでの方を中心に、母里地区では100人ぐらい、天満では80人ぐらいです。それ以外に、この方と思った人に、40～50人ぐらいはもう会っています。全部で250人ぐらいの方のお話を聞きに、私ともうあと2～3人で伺いました。何が良かったかという、やっぱり子ども時代の遊びというか、それを必ず聞くことにしているんですが、先ほど後藤委員から話が出た、おしくら饅頭であるとか、いろんな遊びを話してもらって、それを何とかすくい上げて書くことによって、以前はこれぐらいの子ども達が放課後に集まって、あっちで遊びこっちで遊び、あるいは村中かけ回るといって、そういう姿が見られたのかなと思っています。

今の子ども達っていうのは、そもそもそういう姿を見てないわけですし、もう既に年齢がいった、私かあるいはそれ以上の人たちは、もうかつてそういうことがあったということさえ忘れてしまっています。私の自治会でも、子ども達が2～3人集まって遊んでいる姿を見ると、ものすごく新鮮に感じるんです。子どもがいないのが普通というか、そんなここ10年、20年だったと思います。

そういうほんのちょっと前、40～50年前はこんな感じだったというのを伝えられたらなと思っています。加古に限って言えば、加古神社の祭りは10月にあつて、それは誰も知っているわけですが、自治会ごとにどんな催しがあるのかというのは、案外知られていないんです。

例えて言うならば、六軒屋では恵比寿さんがかなり有名ですが、加古にもう一つ恵比寿さんというのがあり、私もこの間行ってきました。

8月は見谷の地藏盆です。地藏盆というのはどこでもやっているような感じですが、今は念仏を上げることができる方々が集まって、念仏を1時間ぐらい上げて、それで終わりでそうです。私の子どもの頃は、お菓子をもらい歩いていました。それに近い形が加古地区では、見谷だけです。それぐらいに他のところは、静かになってしまった。子ども達があまり関係ないんです。

北新田には7月に祇園さんという、自治会の役員の人たちだけが参るものがあります。

「おとう」と言いまして、池ノ内と千和池だけにあります。池ノ内は、ひらがなの「お」に、当選の「当」、当たるといって、それで「おとう」と読みます。千和池は、御中の「御」、「とう」というのは、祈祷の「禱」です。難しい漢字で、発音は同じなんですが、千和池は2月4日でしたが、お坊さんに来ていただいて、拝んでいただいています。池

ノ内はどうかということ、お堂で拝むのは一緒なんですが、それは誰も来てもらわない。自分たちで、あとは公会堂に集まります。公会堂で何があるかというと、床の間があるんですが、そこに天照大神の掛け軸があって、そこでいわゆる柏手を打つという。池ノ内の人に、加古でこの行事があるのは、池ノ内と千和池だけですと言ったら、びっくりして、どこでも同じようにやられていると思っていたとおっしゃっていました。

それぐらい各村々というか自治会ごとに、たとえ隣であつてもそれを見に行くという習慣がないんですね。そういう姿が、今回の地域編によって明らかになっています。

古文書が1500点ぐらい、写真が2300点ぐらい。寄贈をされた方もおられるし、写真をお返しするという人もいますけど、こういう話も出てきました。何かというと、加古小学校の「稲美野の花」という子ども達の文集です。私が子どもだった昭和35年から昭和41年ぐらいまではあったんですが、こんな立派なものではなかったです。これは昭和12年のいわゆる国家総動員法ができたときに、おそらく国か県から、かなり補助金が出てこんな立派な全部活字ですが、子ども達の文も全部きちっと書いてあります。何が書いてあるかというと、防空演習が始まったとか、あるいは兵隊さんを偲んで行進をする。行進をするのも、加古小学校から二手に分かれて、東回りは、八軒屋、上新田、五軒屋、池ノ内、加古大池をぐるっと回って北新田。千和池を通して戻って来る。それが雨の中でもずぶ濡れになって、泥だらけになってする。西回りもおそらくやったんでしょうが、当時のそういう姿が出てきます。先ほど言いました、お年寄りからいろんなお話を聞いても、やっぱり古い思い出ですので、かなり漠然としてしまっているわけです。

子ども達のこういう当時の書いたそのままと、その人たちのお話を聞くことによって、姿が浮かび上がってくる。大変ですが、そういうふうにして進めていきたいなと思っております。

3月、4月から始めて、1年間で書き終えるということですので、これから大変なんですけど、それに関わっていくのは嬉しいことです。

#### 中山町長

まずは加古地区という形でお願いをしているわけですが、非常に楽しみにしています。今しかも集めることができない貴重な声であったり、それから資料も大切ですので、稲美町の歴史を次に残す、非常に大切な事業ですので、しっかりと進めていきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

少し時間の方がおしておりますが、大変有意義な意見交換ができたと思っております。ありがとうございます。

それでは次第4. その他に移りたいと思います。(1)「第2次稲美町教育振興基本計画(大綱)にかかる点検評価報告書について」の説明を事務局からお願いします。

瀧口人権教育課長 （資料説明省略）

申し訳ございません。次第には第2次と書いてあるんですが、現在は第3次稲美町教育振興基本計画となっておりますので、訂正をお願いします。

中山町長

「第3次稲美町教育振興基本計画(大綱)にかかる点検評価報告書について」の説明がありました。

これについて、ご意見があればお願いします。

ご意見がないようですので、続いて、(2)「次回の開催予定について」の説明を事務局からお願いします。

司会(井上経営政策部長)

この会議につきましては、基本的に年1回の開催として、重大事件等協議が必要な事案が発生した場合は随時開催することとしております。

なお、例年2月に開催しておりますが、会議の開催日程につきましては、今後も協議内容によっては開催時期を検討させていただきまして、適切な時期に開催したいと考えております。

正式に日程等が決まりましたら、構成員の皆様方にお知らせすることとしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

中山町長

それではまた次回に関しては、事務局の方から調整があるということで、よろしくお願いいたします。

それでは本日の協議事項、それから調整事項が終わりましたので、これをもちまして、今年度の稲美町教育総合会議を終了させていただきたいと思います。

ありがとうございました。